

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600046		
法人名	株式会社 彩寿		
事業所名	グループホーム彩寿 1階		
所在地	〒053-0832 苫小牧市桜木町2丁目2番20号		
自己評価作成日	令和4年6月20日	評価結果市町村受理日	令和4年8月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0193600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0193600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年7月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気、入居者様とスタッフの会話も多く笑顔のたえないホームです。施設ではなく、家という思いで喜びや悲しみを共有しながら、ホームがひとつの家族の様な関係作りを目指しています。医療面では、協力医療機関や訪問看護ステーションと連携し日々の健康管理に努めています。看取り介護にも積極的に取り組んでいます。地域との繋がりも大切にしながら入居者様が安心・安全に過ごせる様、ご家族様にも安心・信頼していただける様なホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

苫小牧市郊外の閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には公園や学校、病院があり、バス停も徒歩10分ほどで利便性が高い。共用空間は居間と食堂を中心に居室が配置され、明るく清潔である。広めの玄関、地域交流室の設置など、ゆとりのある造りとなっている。地域との関係では、感染症の流行により行事の参加はできないものの、職員が住民と情報交換を密にし、交流の再開を目指している。独居高齢者のカギ預かりや認知症キッズサポーター養成講座の実施にも事業所として協力している。家族とは電話連絡を密にとり、話し合いの内容を記録し共有している。職員と管理者、代表者が話しやすい環境をつくり、ミーティングで活発に意見が交わされている。また、職員は通信の作成や行事の企画、食材発注などの業務を分担し、運営に参加している。医療支援の面では、往診体制や通院支援体制を整え、個人および医療機関ごとに受診記録を作成して情報を共有している。看取りに関しては、ここ数年で複数の看取りを行い、経験を積んでいる。食事の面では、外食ができない分、事業所内で楽しめるよう、バイキング形式や焼き肉会、弁当等の出前など様々な方法で楽しめるようにしている。快適な環境と行き届いた支援のもと、居心地よく過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに基本理念を掲示し、日頃から目に入る様になっている。また、ケアの提供の際には基本理念に添った提供を考えている。	基本理念の2つ目に「地域と共に歩むホームを目指します」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を玄関や各ユニットに掲示し、毎月のミーティングで理念に沿ったケアができていないか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でボランティアや近隣幼稚園や小学校との交流を図っていたが、現在はコロナの影響で控えている。	感染症の流行により地域の行事がなく参加できていないが、職員が近所で住民と会った際に頻りに情報交換している。以前はボランティアや幼稚園児、小学生との交流があり、感染症収束後の再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣小学校での、認知症サポーター養成講座に関わっていたが、コロナの影響で控えていた。今年は11月以降に予定をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで外部からの立ち入りを禁止していたので、報告や情報交換が、不十分であると思う。今後は、話し合いを行いサービス向上に活かしていきたい。	現在は年6回の文書による開催となっており、文書によるメンバーへの運営報告が中心となっている。議事録の家族への送付を行っていない。	実際の開催ができるまでの間も、計画的にテーマを設定し、メンバーからテーマや運営に関する意見を収集して会議に反映する取り組みを期待したい。また、議事録の家族への送付も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、情報提供・相談等を行いながら、協力関係を築いている。	主に電話で市の担当者に相談や報告を行っている。地域の独居高齢者のカギ預かり事業に協力している。近々、地域の認知症キッズサポーター養成講座も行う予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護を通し、申し送り時やミーティングの場などで意見交換や話し合いを重ね、身体拘束について正しく理解できる様取り組んでいる。	年4回、身体拘束に関する委員会と勉強会を行い、禁止の対象となる11項目の具体的な行為も確認している。委員会と勉強会の記録をより分かりやすく整理する方針である。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に出入りが出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間の情報を共有しながら、1人ひとりのケアを確認し、虐待が見過ごされることがない様注意を払っている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加機会も減り、学ぶ機会も持っていない。今後学ぶ機会を設けて活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い入居者様やご家族様の、疑問や不安な点を解決し、理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様とのコミュニケーションを重視し、意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。出された意見・要望は、ホーム内で共有し運営に反映指せるよう取り組んでいる。	家族に電話で連絡した際に意見を聞いている。話し合いの内容を利用者ごとに記録し、連絡ノートでも共有している。写真を載せた彩寿通信を3か月ごと、個別のお便りを毎月、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回個別面談の場を設け、スタッフの意見・提案を聞いている。それ以外でも、随時意見交換を行い、十分な話し合いの場を設け、運営に反映させている。	毎月のミーティングで職員が活発に意見交換している。年1回の個別面談も行っている。職員は行事、通信作成、食材発注、薬やオムツの管理などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善や職場環境の整備に努めている。向上心がもてる様、資格取得の為の休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、外部研修の参加はなかなかできないが、ミーティングや申し送り時の時間を活用し、職員を育てる取組みをしている。資格取得の為の研修については参加しやすい環境作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との研修機会もなくなっているが、管理者を通し情報交換をしながら、サービスの質の向上に繋がる様取組みをしている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフと入居者が気軽に話せる、雰囲気作りや声かけに気をつけ、要望や不安等を傾聴し安心して暮らせるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や不安に思っている事に、耳を傾け、情報の共有しながら不安の解消、要望に近づく様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人・ご家族の要望を聞き、必要としているサービスは何かを見極め、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に楽しんだり、くつろぐ時間を設けたり家庭的な環境作りを心がけ、喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様だけではなく、ご家族様も含めケアの対象と考え、不安を取りのぞく関係づくりに努めている。また、ケアの方向性を一緒に考えて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの、電話や手紙の取次ぎはしているが、面会はコロナの関係で控えている。	2名の利用者に知人から電話が来るので取り次いでいる。遠くの親族が訪ねて来る利用者もいる。感染症の流行により、馴染みの場所への買い物に行けていないが、状況を見ながら徐々に再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性や、性格を理解した上で気の合う方同士の食事のテーブルの設定をしたり、ゲームが出来る等の支援に努めている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、数名のご家族様との関係が続いている。また、相談ケースが持ち込まれる事もあり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居様様の希望や意向を把握できる様、コミュニケーションを大切にし、スタッフ間の情報共有に努めている。困難な場合は、本人本位に検討するよう努めている。	半分ほどの利用者が言葉で思いや意向を伝えることができ、その他の利用者も仕草や表情、家族の話などを参考に把握している。アセスメントシートに、性格や好み、生活歴を記載し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様や担当ケアマネから情報提供をしてもらい、まとめた情報をスタッフ間で共有し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やコミュニケーションを通し、個々の生活リズムや身体状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、それぞれの意見を反映しながら、現状に沿った介護計画を作成している。	3か月ごとにモニタリングとカンファレンスを行い、職員、家族の意見を集約して介護計画を更新している。介護計画の目標番号を記しながら利用者の日々の様子を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、スタッフ間で情報交換や情報の共有をし、実践・評価・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホ人やご家族様の、その時々々のニーズに合わせた柔軟な対応ができるよう、十分な話し合いを行いサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域行事も減り参加できていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や必要に応じて外来受診をおこなっている。緊急時の連絡体制を整え、適切な医療が受けられるよう支援している。	全利用者が内科の協力医による月1~2回の往診を受けている。その他の専門医の受診も事業所で通院支援している。個人ごと、さらに医療機関ごとに受診記録を作成して職員、家族と情報を共有している。	

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっている。また、週1回の定期訪問で情報交換・情報の共有をし、適切な看護が受けられる様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居様様の入院時には、安心して治療が受けられる様また、早期に退院が出来る様、病院関係者と情報交換情報の共有、相談等しやすい関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は改めて、同意書を交わし、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携しスタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。	利用開始時に重度化した場合の対応に関する指針を説明して同意書を得、看取りに入る場合は家族の意思を再確認している。最近も複数の看取りを行い、職員は経験を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より急変時や事故発生時に備え、各スタッフが対応できる様、確認や話し合いを行い実践力が身につくようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間・夜間の避難訓練を行い、避難方法等の確認をおこなっている。災害時に備えて、備蓄品の保管管理をしている。災害時の訓練は今後の課題である。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、感染症が落ち着いたら、消防や住民の参加依頼を再度行う方針としている。職員の定期的な救急救命訓練の受講、地震や水害、ケア場面別の災害対応への準備はまだ十分ではない。	各職員が3年に1回程度、計画的に救急救命訓練を受講できるよう取り組みを期待したい。また、地震、水害、ケア場面別の災害対応について、年1回程度、職員間で確認することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、1人ひとりに合わせた言葉かけやケアを行っている。	利用者は「さん」づけで呼びかけている。記録類はプライバシーに配慮して記入し、適切に保管している。感染症収束状況を見ながら接遇研修の再開を考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話を多く持ち日々の変化や本人の思いをくみ取れる様、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活パターンやその日の体調等に合わせ、本人の望む暮らしに近づける様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し、本人の希望に合わせたカットやパーマをオーダーしている。本人の希望に合わせ、化粧品を購入している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日等に合わせ、本人の食べたい物や季節を感じられる食事を提供している。また、スタッフと一緒に味付け等を行ったり、食事に楽しみを持てるよう取り組んでいる。	食材会社の献立を基本に、季節料理を提供したり誕生日に本人の好きな料理やバイキングにすることもある。庭でバーベキューをしたり、寿司や弁当、釜めしなどの出前を取って楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立をメインに提供している。水分量や食事を記録し、1日の水分量が確保出来る様支援している。必要に応じて、キザミ食やトロミを付けるなどの支援もしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、日頃から口腔内の清潔を保つよう努めている。訪問歯科による、口腔ケア指導も行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、各入居者様の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導、介助を行っている。介護が高い入居者様でも、トイレでの排泄を基本とした支援を行っている。	全員の排泄を記録し、利用者に応じて声かけや誘導、見守りで対応している。可能な限りトイレでの排泄を支援し、身体状況に応じてベッド上で排泄用品を交換したり夜間のみポータブルトイレを使用することもある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。水分量や食物繊維乳製品の摂取にも気をつけ予防にも取り組んでいる。腹部マッサージや服薬支援も行う。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を進めており、それぞれ希望の時間や曜日で、入居者様に合わせた入浴支援をしている。	毎日入浴が可能で、入浴順や回数、時間帯や同性介助など本人の希望に沿って柔軟に対応している。好きな音楽をかけたり、湯船に花びらを浮かべたりしながら入浴が楽しめるように工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターンや状況に合わせて、夜間安心して眠れる様、就寝ケアの支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量を把握し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。服薬後の体調変化にも注意をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や、力を活かし掃除・食事の下ごしらえ・後片付け等をしながらか気分転換になる様支援している。また、嗜好品の購入など、楽しみにつながる様支援している。			

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、外出は控えている。少しずつ、散歩の機会や買い物など外出の機会を設けていきたい。	バルコニーで外気浴をしたり、庭で焼き肉パーティーやおやつを食べるなどユニットごとに工夫して外気に触れている。畑の野菜に水やりをしたり収穫を手伝うこともある。今後は近隣や公園を散歩したり、感染症の収束状況を見ながら外出行事も再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な入居様は、ご家族様と相談しながら、決められた金額を所持している。その中で、おやつを購入するなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取次ぎの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日共有空間の清掃、消毒を行い清潔保持に努めている。夏は扇風機、冬は加湿器を設置し温度・湿度に気をつけている。壁面には、季節を感じられる飾り付けをし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居間と食堂を中心に居室が配置された開放感のある造りで、各利用者が好きな場所で寛げるようにソファを数か所に置いている。利用者と一緒に季節を感じる装飾を施したり、見やすい場所に時計やカレンダーなどもあり、家庭的で清潔感のある共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を置き、自由にくつろげる様に工夫している。また、気の合う入居者様同士、トランプなどゲームをして過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、馴染みも物を持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。居室入口には、のれんを付け、人気を感じつつプライベートな空間を保てるよう配慮している。	クローゼットが備え付けられた居室に、使い慣れたタンスや鏡台、ソファなどを持ち込み居心地よく過ごせるように工夫している。家族の写真や職員からのメッセージカード、自分の作品などを飾りその人らしい落ち着いた室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内には手摺を設置し、トイレは車椅子用、自立用を設け、それぞれの出来る事を活かし、安全に生活が送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600046		
法人名	株式会社 彩寿		
事業所名	グループホーム彩寿 2階		
所在地	〒053-0832 苫小牧市桜木町2丁目2番20号		
自己評価作成日	令和4年6月20日	評価結果市町村受理日	令和4年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気、入居者様とスタッフの会話も多く笑顔のたえないホームです。施設ではなく、家という思いで喜びや悲しみを共有しながら、ホームがひとつの家族の様な関係作りを目指しています。医療面では、協力医療機関や訪問看護ステーションと連携し日々の健康管理に努めています。看取り介護にも積極的に取り組んでいます。地域との繋がりも大切にしながら入居者様が安心・安全に過ごせる様、ご家族様にも安心・信頼していただける様なホーム作りを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年7月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに基本理念を掲示し、日頃から目に入る様にしている。また、ケアの提供の際には基本理念に添った提供を考えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等でボランティアや近隣幼稚園や小学校との交流を図っていたが、現在はコロナの影響で控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣小学校での、認知症サポーター養成講座に関わっていたが、コロナの影響で控えていた。今年は11月以降に予定をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで外部からの立ち入りを禁止していたので、報告や情報交換が、不十分であると思う。今後は、話し合いを行いサービス向上に活かしていきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、情報提供・相談等を行いながら、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護を通し、申し送り時やミーティングの場などで意見交換や話し合いを重ね、身体拘束について正しく理解できる様取り組んでいる。入居者様の生命に関わる事など、やむを得ない場合を除き、1人ひとりを尊重したケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間の情報を共有しながら、1人ひとりのケアを確認し、虐待が見過ごされることがない様注意を払っている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加機会も減り、学ぶ機会も持っていない。今後学ぶ機会を設けて活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い入居者様やご家族様の、疑問や不安な点を解決し、理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様とのコミュニケーションを重視し、意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。出された意見・要望は、ホーム内で共有し運営に反映指せるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回個別面談の場を設け、スタッフの意見・提案を聞いている。それ以外でも、随時意見交換を行い、十分な話し合いの場を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善や職場環境の整備に努めている。向上心がもてる様、資格取得の為の休暇や手当等の制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、外部研修の参加はなかなかできないが、ミーティングや申し送り時の時間を活用し、職員を育てる取組みをしている。資格取得の為の研修については参加しやすい環境作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との研修機会もなくなっているが、管理者を通し情報交換をしながら、サービスの質の向上に繋がる様取組みをしている。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフと入居様が気軽に話せる、雰囲気作りや声かけに気をつけ、要望や不安等を傾聴し安心して暮らせるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や不安に思っている事に、耳を傾け、情報の共有しながら不安の解消、要望に近づく様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人・ご家族の要望を聞き、必要としているサービスは何かを見極め、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側という関係ではなく、暮らしを共にする家族という関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、連絡を密にし入居者様の情報を共有し共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人からの、電話や手紙の取次ぎはしているが、面会はコロナの関係で控えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性や、性格を理解した上で、スタッフが関わりながら、1人1人が孤立しない様に良好な関係作りができるよう支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居様の話しを傾聴し、本人の希望や意向の把握に努め、寄り添うケアを行っている。時に困難な場合は本人本位に検討するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様や担当ケアマネから情報提供をしてもらい、まとめた情報をスタッフ間で共有し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの活用やコミュニケーションを通し、個々の生活リズムや身体状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を聞き、モニタリングを行い、それぞれの意見を反映しながら、現状に沿った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、スタッフ間で情報交換や情報の共有をし、実践・評価・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホ人やご家族様の、その時々ニーズに合わせた柔軟な対応ができるよう、十分な話し合いを行いサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為、地域行事も減り参加できていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や必要に応じて外来受診をおこなっている。緊急時の連絡体制を整え、適切な医療が受けられるよう支援している。		

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、24時間連絡可能な体制となっている。また、週1回の定期訪問で情報交換・情報の共有をし、適切な看護が受けられる様、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院時には、安心して治療が受けられる様また、早期に退院が出来る様、病院関係者と情報交換情報の共有、相談等しやすい関係作りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取り介護についての説明を行っている。実際に看取り介護の状態になった時は改めて、同意書を交わし、かかりつけ医や訪問看護ステーション、ご家族様と連携しスタッフ全員で看取り介護に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より急変時や事故発生時に備え、各スタッフが対応できる様、確認や話し合いを行い実践力が身につくようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間・夜間の避難訓練を行い、避難方法等の確認をおこなっている。災害時に備えて、備蓄品の保管管理をしている。災害時の訓練は今後の課題である。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、1人ひとりに合わせた言葉かけやケアを行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話を多く持ち日々の変化や本人の思いをくみ取れる様、自己決定出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活パターンやその日の体調等に合わせ、本人の望む暮らしに近づける様、支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容を利用し、本人の希望に合わせたカットやパーマをオーダーしている。			

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日等に合わせ、本人の食べたい物や季節を感じられる食事を提供している。後片づけやもやしのひげ取りなど、出来ることは一緒に行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量を記録し、1日の水分量が確保出来る様支援している。必要に応じて、キザミ食や介護食、トロミを付けるなどの支援もしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、日頃から口腔内の清潔を保つよう努めている。訪問歯科による、口腔ケア指導も行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、スタッフ間で情報を共有し、1人ひとりに合った声掛けや、誘導をおこなっている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、トイレに行く習慣が出来るよう支援している。水分量や食物繊維乳製品の摂取にも気をつけ予防にも取り組んでいる。腹部マッサージや服薬支援も行う。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれ希望の時間や曜日で、入居者様に合わせた入浴支援をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターンや状況に合わせて、夜間安心して眠れる様、就寝ケアの支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量を把握し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。服薬後の体調変化にも注意をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や、力を活かした食事の下ごしらえや後片付け等しながら気分転換になる様支援している。また、飲酒希望など入居者様に合わせた支援をしている。			

グループホーム彩寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、外出は控えている。少しずつ、散歩の機会や買い物など外出の機会を設けていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に添って、買い物に同行しお金を使う事の支援を行っていたが、コロナの影響で控えている。今後は、状況を見ながら再開していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、手紙や電話の取次ぎの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は扇風機、冬は加湿器を設置し温度・湿度に気をつけている。壁面には、季節を感じられる飾り付けをし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を置き、自由にくつろげる様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、馴染みも物を持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。居室入口には、のれんを付け、人気を感じつつプライベートな空間を保てるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内には手摺を設置し、トイレは車椅子用、自立用を設け、それぞれの出来る事を活かし、安全に生活が送れるよう工夫している。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム彩寿

作成日：令和 4年 7月 29日

市町村受理日：令和 4年 8月 3日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	実際の開催ができるまでの間も、計画的にテーマを設定し、メンバーからテーマや運営に関する意見を収集して会議に反映する取り組みを期待したい。また、議事録の家族への送付を期待したい。	コロナの状況を見ながら、会議の開催を進めていく。ご家族様の意見を収集し、会議に反映出来るよう取り組んでいく。ご家族様への議事録送付も継続して、取り組んでいく。	面会の機会が減っているが、ご家族様の意見が反映される様、こちらから積極的にテーマ等について、声掛けをしご家族様の意見を引き出せる様な取り組みを行う。	1年～
2	35	各職員が3年に1回程度、計画的に救急救命訓練を受講できるよう取り組みを期待したい。また、地震・水害・ケア場面別の災害対応について、年1回程度、職員間で確認することを期待したい。	各職員が、救急救命の訓練を受講できるよう取り組んでいく。地震・水害等についても、年1回程度、職員間で確認をする。	救命救急の訓練を受講できるよう、計画を立てて取り組む。地震・水害等については、ミーティングを利用し、職員間で確認を行う。	1年～
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。